

## 検証と血債

## —シンガポールにおける記憶の視覚化—

Screening and compensation  
—How to visualize their memories in Singapore—城殿 智行<sup>1</sup><sup>1</sup>大妻女子大学比較文化学部Tomoyuki Kidono<sup>1</sup><sup>1</sup>Faculty of Comparative Culture, Otsuma Women's University  
12 Sanban-cho, Chiyoda-ku, Tokyo, Japan 102-8357

キーワード：シンガポール，戦没者記念碑，戦後補償

Key words : Singapore, Civilian war memorial, War reparation

## 抄録

シンガポールの市街中心部には、戦没者記念碑が立つ。第2次世界大戦中、シンガポールを占領した日本軍は、抗日分子の排除を企図して、5万人ともいわれる華僑を粛清していた。1962年になって、粛清された華僑犠牲者の遺骸が発掘されたのを契機とし、日本軍占領下に殺されたすべての一般市民を弔うための慰霊碑が求められ、1967年に落成した。市民による抗議運動の高まりを受けて、日本は同年にシンガポールと準賠償協定を結んだが、戦争責任を公式に認めるものではなかった。戦没者記念碑は、多民族国家シンガポールの象徴であるが、日本は今もなお、それを直視することができないでいる。

## 1. 血債の塔

シンガポールの戦争記念公園は、市街中心部に位置する地下鉄シティ・ホール駅の東隣、ラッフルズ・ホテルの真南にあり、公園中心部には日本佔領時期死難人民記念碑（“The Memorial to the Civilian Victims of the Japanese Occupation”，通称「血債の塔」，以下記念碑）が建てられている。コンペティションに通ったスワン&マクラーレン建築事務所の故レオン・スウィー・リムによるデザインは、上方へむけて先細る高さ68mの白い四角柱を4本、口の字型に束ねた形をしており<sup>[1]</sup>、「箸」の愛称がある。たしかに、二膳の箸を逆さに握って、地面へ突き刺したように見えなくもない。

記念碑の姿は、マリーナ西側を走る大通り「エスプラネード」を北上した場合にのみ、持続的に望むことができるものの、それ以外の方角から地面に突き刺された「箸」を拝むのは、難しい。市街中心部の好位置を与えられているにもかかわらず、西側のフェアモントやスウィソテル・スタン

フォード、北側のJWマリオット・サウス・ビーチといった高層ホテル群に囲繞されて、記念碑は近代的な都市景観の中に埋没しているため、たとえばすぐ西にあるセント・アンドリュース大聖堂側からさえ、その姿を視野に収めることは、困難である。したがって、誰の目にもとまる、シンガポールのランド・マークとして記念碑が機能しているのだとは、もはや言いがたい。

また、以前からシンガポールを悩ませていた水不足を解消するためのマリーナ淡水化計画に伴う、ここ10年にわたる大規模な再開発により、フラトンやラッフルズなどのコロニアル様式ホテル近辺に集中していたベイ・エリア観光客の関心が、近未来的なデザインをもつベイ・サンズやガーデンズ・バイ・ザ・ベイへと移り、それとともに、人の流れもマリーナ北西から東南へと移動したことによって、記念碑の印象は、いっそう薄れたというべきかもしれない。実際、ベイ・エリア北西の高層ホテル宿泊客が自室の窓から無意識に見下ろすような場合をのぞき、記念碑に特別の注

意を払う観光客はきわめて稀で、記念公園を訪れる者は数少ない。

1962年、日本軍による華僑粛清“Sook Ching massacre”犠牲者の遺骸がシグラップ・チャンギ等、現空港付近のシンガポール東岸および島中心部のブキッ・ティマ丘陵で出土したことを受け、シンガポール中華総商会“Singapore Chinese Chamber of Commerce, SCCC”が日本佔領時期死難人民遺骸善後委員会を組織して全島遺骸発掘調査に当たった。記念碑の地下には、当初、火葬後の遺骨を収蔵する納骨堂が予定されたが、火葬に対する宗教的配慮から、計画は見直され、現在の記念碑は、シンガポール全土から発掘された遺骸を収める606甕が再埋葬された玄室の上に建つ<sup>[2]</sup>。4本の柱によって囲まれた記念碑の基底部には、あらためて地下に眠らされた遺骸を象徴する大きな青銅の壺がすえられ、壺の台座には、英語・中国語・マレー語およびタミル語による同内容の碑文が刻まれている。それには「永続する深い嘆きとともに、この記念碑を、シンガポールが日本軍占領下にあった1942年2月15日から1945年8月18日までの間に殺された、一般市民の思い出に捧げる」(英文訳)とある。

碑文からも察せられるように、記念碑の本体となる4本の柱は、それぞれがシンガポールを構成する華人・マレー人・インド人そしてユーラシア人を表しており<sup>[3]</sup>、1965年、マレーシアからの分離独立後、多民族国家の困難を押してナショナルティの統合を強く求めたリー・クアンユー首相の意志を示すかのように、各民族を表象して屹立する4柱は、下から3分の1ほどの高さで、外観からは目立たぬように、太い隠し梁によって口の字型に固く結合され、また上から5分の1ほどの高さにも、再度、隠し梁が十字に渡されている。

この記念碑にとって重要なのは、空へと高く伸びて各民族の矜持を示す柱列本体であるよりも、むしろその基底部にすえられた大きな空の壺と、4本の柱を念入りに結合した2つの隠し梁であり、それらにこそ、民族や国語の同一性といったナショナルな基底を容易には仮構しがたいシンガポールがたどることになった、近代国家としての困難が正確に表象されているように見えるのだと指摘するのは、はたしてうがちすぎであろうか。空の壺に収められているはずなのは、日本軍に粛清された華僑のみではなく、犠牲となった「シンガポールの一般市民“OUR CIVILIANS”」すべての遺骨

であり、2つの隠し梁が示すのは、ナショナルかつフィクショナルな、ありうべき多民族の結合である。

しばしば批判されたように、その後も強力な指導力を発揮し、一種の開発独裁国家としてシンガポールをまとめあげたリー・クアンユー首相の主催で、シンガポール陥落25年目に当たる1967年2月15日に、記念碑の落成式がとり行われた。同年9月、日本は2,500万シンガポール・ドル(約29億4000万円相当)を無償供与する戦後賠償協定を締結した<sup>[4]</sup>。

## 2. 華僑粛清

1941年12月8日未明、オランダ領東インドの資源を求めた日本軍は、真珠湾攻撃に先立ち、イギリス領マレーおよびシンガポールの獲得を企図して、マレー半島東海岸コタバルに奇襲上陸後、歩兵に自転車をあたえて俗にいう「銀輪部隊」を編成し、シンガポールに到達するまでのおよそ1,100キロをわずか55日間で踏破する電撃的進軍をみせ、42年1月31日には半島南端ジョホール・バルに達した。

2月8日からシンガポール攻略にとりかかった山下奉文将軍率いる帝国陸軍第25軍は、ジョホール海峡横断およびブキッ・ティマ丘陵攻略時に苦戦しながらも、15日朝には連合軍最終防衛線を突破、山下は司令官パーシヴァルに「イエスカノーカ」で降伏を迫り、同日夕刻、連合軍は日本に降った。人口に膾炙した「銀輪部隊」「パーシヴァル・山下会談」の様子は、日本映画社の『マレー戦記』などにもうかがうことができる。大本営は英軍降伏前の14日、すでにシンガポールを「昭南島」と改称することを決定し、21日には中国語新聞『昭南日報』を発行、マレー半島およびシンガポールの領有を宣言した。

上陸前から抗日敵性分子の排除を明確に企図していた日本軍は<sup>[5]</sup>、42年2月から3月にかけて、疑わしい華僑を選別するため、山下奉文軍司令官・鈴木宗作参謀長・辻政信参謀・河村参郎昭南警備隊司令官らが中心となって、抗日分子の「検証」を実施し、該当者を機銃掃射等により殺害した<sup>[6]</sup>。粛清された華僑は5,000人から50,000人に上ると言われる<sup>[7]</sup>。

日本軍によって出頭命令を下された18歳から50歳の在シンガポール華僑は、「蒋介石と汪精衛<sup>[8]</sup>のどちらが正しいか」といった直截な思想調査

や、「陳嘉庚<sup>[9]</sup>を知っているか」との知識調査を受け<sup>[10]</sup>、また義勇軍参加経験を問われた。場合によっては、職業や外見のみによって抗日敵性を判断されることもあり、日本軍の「検証」基準は不分明をきわめた<sup>[11]</sup>。肅清犠牲者の遺骸発掘作業が事件後 20 年を経てようやく本格化したことから察せられるように、「華人大検証」は十分な証拠もそろわないまま、イギリス軍シンガポール裁判にかけられ、河村参郎ほか 1 名が絞首刑、5 名が終身刑に処せられたが、山下奉文はマニラ大虐殺等の責任を問われてフィリピンで処刑されたため、本件によっては裁かれず、辻政信は逃げおおせて、帰国後『潜行三千里』等の潜伏記録を発表、ベストセラー作家となり、さらには旧石川 1 区から立候補して衆参両議員を経験した。

したがって、道義的にいえば、いまだにおよそ未解決である「大検証」事件に関して、シンガポールは国立博物館や国立公文書館口承歴史センターの地道な活動の積み重ねを通じ、現在も再検証に努めている<sup>[12]</sup>。

### 3. 真白な高い塔

先に述べたように、日本は戦後補償に際しても、多民族混交国家のナショナリティに対し、きわめて鈍感に振る舞った。シンガポールの特性を視覚的に表象した記念碑の存在を傲然と無視する戦後日本政府の態度は、あたかも八紘一宇や大東亜共栄圏を謳った戦前を想起させるといえば、これもまた誇張がすぎるだろうか。

しかし、たとえば、映画を中心として、戦前の日本における国家的な視覚文化統制策を緻密に分析したピーター・ハーイは、「戦前と戦後」といった区分を本質的に否定している。自身が「文部省の直接の支配下にある」国立大学教員として勤務した経験から察するに、現代の文部官僚が教育現場に対して示す傲慢さは、戦前に視覚文化統制策の中心を担った官僚が映画製作者に対して示したそれに酷似しており、「したがって現在の官僚の病理に対する分析は、そのまま戦前・戦中の統制派官僚の行動様式を理解に役立つことができる」と、ハーイは大部の著作の前書きにあえて記しているのだが<sup>[13]</sup>、政治学や社会学的な観点からすれば、ハーイの指摘は単なる印象批評に見えようとも、文科省の天下り斡旋や森友学園および加計学園問題などが相次ぐ現状に照らして、それが正鵠を射た批評であることは、明らかであろう。

ハーイが官僚の病理に見られる特徴として挙げた、「その命令に従わなければならない者にとって、不可解としか言いようのない、官僚特有のもったいぶった曖昧な表現」や、「目的達成のために必要な資金・物資・措置その他を半分しか与えずに、目的達成を強要するやり方」などは<sup>[14]</sup>、そのまま、シンガポールとの戦後賠償協定にも該当する<sup>[15]</sup>。

つまり、シンガポール中心部に建つ「真白な高い塔」<sup>[16]</sup>を目にするとき、特徴的に浮かび上がる日本の鈍感さと傲慢さは、南方占領地の住民に対する映画を活用した宣撫工作を、日本国内におけるプロパガンダ政策の模倣・延長としてしか構想しえなかった戦前と、今なお、地続きなのだといえる<sup>[17]</sup>。日本軍による占領後の昭南には、さっそく、「南方映画工作処理要領」に基づいて社団法人映画配給社南方総支局が置かれたが、日本の構想した視覚文化施策は、大枠において、日本語による国体思想の注入や大東亜共栄圏構想強要の域を出なかった<sup>[18]</sup>。

いいかえれば、戦前も戦後も、日本および日本人は、4 本に串割れした「箸」の姿を、ただ 1 本の「高い塔」であるかのように錯視して、あるいはそれが自らの恥部をさらし過去の責任に直面させる「血債の塔」であるかのように誤認して、ずっと目をそらしつづけようとしてきたのである。だがむろん、記念碑は、近代的な国民国家として容易には統合しえない多民族国家シンガポールの、ありうべき希望を象徴している<sup>[19]</sup>。

### 付記

本研究は、平成 28 年度大妻女子大学「戦略的個人研究費」(S2816)の助成を受けた研究成果の一部である。

### 引用文献

[1] 記念碑の高さに関しては、情報源により若干の誤差が認められる。シンガポール国立図書館(a)は 68m、国立遺産庁(b)は 67m、政府観光局(c)は 65m、国防省(d)は 61m としている。インターネットや文献上では、ほかに 70m 等の記載も散見される。ここでは仮に、後述の林(2007)も採用し、巷間に広く流布している 68m と記載しておく。

またリムによるデザインは、応募時点からかなり修正を施されている(b)。

(a)“Civilian War Memorial”. National Library Board

Singapore.

[http://eresources.nlb.gov.sg/infopedia/articles/SIP\\_516\\_2004-12-23.html](http://eresources.nlb.gov.sg/infopedia/articles/SIP_516_2004-12-23.html), (accessed 2017-6-25).

(b)“Civilian War Memorial”. National Heritage Board. <https://roots.sg/Content/Places/national-monuments/civilian-war-memorial>, (accessed 2017-6-25).

(c)“The Civilian War Memorial”. Singapore Tourism Board.

<http://www.visitsingapore.com/see-do-singapore/history/memorials/civilian-war-memorial.html>, (accessed 2017-6-25).

(d)“1966 - The Civilian War Memorial”. Ministry of Defence Singapore.

[https://web.archive.org/web/20071006210854/http://www.mindef.gov.sg/imindef/about\\_us/history/birth\\_of\\_saf/v05n04\\_history.html](https://web.archive.org/web/20071006210854/http://www.mindef.gov.sg/imindef/about_us/history/birth_of_saf/v05n04_history.html), (accessed 2017-6-25).

[2] (b) (d) Ibid.

林は、35ヶ所から集められた607甕から、英軍と、身元が判明した遺族がそれぞれ引きとった計2甕を除く、605甕としている。

林博史. シンガポール華僑粛清—日本軍はシンガポールで何をしたのか. 高文研, 2007, p.163-4.

[3]4 柱は多元的民族的の団結を表すのと同時に、シンガポール人の「忠・勇・仁・義」を示しているのだといった解釈もある。

許雲樵・蔡史君編. 日本文占領下のシンガポール. 田中宏・福永平和編訳. 青木書店, 1986, pp.337-8.

[4]正確には、「日本国とシンガポール共和国との間の千九百六十七年九月二十一日の協定」によって、「無償供与としての二千五百万シンガポール・ドル及び特別の条件による借款としての二千五百万シンガポール・ドルからなる五千万シンガポール・ドルが日本国によりシンガポール共和国に供与」された。ただし、前者は、2,500万シンガポール・ドルの「価値を有する日本国の生産物及び日本人の役務をシンガポール共和国に無償で供与するもの」であった。条約内容は外務省で確認しうる。

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/treaty/pdfs/A-S43-427.pdf>, (accessed 2017-6-25).

また、戦争記念公園および記念碑の費用が日本から供与（あるいはシンガポールと折半）されたかのごとき誤認が今も一部に残るのは、公式な謝罪を伴わない準賠償協定が成立するまでの複雑な経緯による（当初、イギリス大使館のトレンチ参事官およびリー・クアンユーは、記念公園・記念

碑建設費用等の拠出を日本に打診していた）。佐藤晋. 対シンガポール・マレーシア「血債」問題とその「解決」。二松学舎大学東アジア学術総合研究所集刊. 2008, 38, pp.31-33, 45.

しかし結果としては、道義的にも経済的にも、記念碑は日本とまったく無縁に建てられたばかりか、記念碑落成直後に渡星した首相佐藤栄作は、「もし（記念碑へ）行けばシンガポール国民に（血債問題の）記憶をあらたにさせてまずい」という理由から、参拝をあえて避けた。また林（2007）も引くように、時のシンガポール特命全権大使上田常光は、（首相が参拝などすれば）「寝た子を起す」ことになりかねず、「記念碑参拝をうんぬんするのは日本人流のこだわった考えからだ。シンガポール政府はなにもいってきていない。祖国に忠誠を尽くした無名戦士の墓ならとにかく、シンガポールの記念碑は戦争中に死んだ一般人の墓にすぎない。わざわざ首相が行く性質のものではないと思う」と語った。

朝日新聞. 東京朝刊. 1967-8-19, p.14.

その後も日本政府関係者には顧みられず、わずかに社会党の土井たか子衆院議長と村山富市首相のみが献花により弔意を示したにすぎない。その際にも外務省は首相参拝が慣例化することを畏れて、消極的だった。

朝日新聞. 東京朝刊. 1994-8-29, p.2.

[5]林博史. 華僑虐殺—日本軍支配下のマレー半島. すずさわ書店, 1992, pp.39-46, 212-235.

[6]同著. 裁かれた戦争犯罪—イギリスの対日戦犯裁判. 岩波書店, 1998, pp.209-227.

林（2007）, pp.47-151.

[7]同前, pp.162-170.

前掲シンガポール国立図書館(a)および政府観光局(c)は50,000人、国防省(d)は5,000-50,000人の華僑と記載している。

また、シンガポール国立公文書館所蔵資料によれば、自身も「検証」を受けたリー・クアンユーは、2009年にナショナル・ジオグラフィック誌のインタビューに答える形で、「粛清された犠牲者は、多く見積もれば90,000人に上るだろうが、立証できるのは50,000人だ」と述べている（リーが口にしたこの数も誤って引かれる場合がある）。  
<http://www.nas.gov.sg/archivesonline/speeches/view.html?filename=20100104007.htm>, (accessed 2017-6-25).

[8]汪兆銘, 日本が擁立した南京国民政府主席。

[9]シンガポール華僑抗敵動員總會主席，華僑抗日義勇軍を組織。

[10]許雲樵・蔡史君編。前掲書，p.26.

[11]シンガポール・ヘリテージ・ソサエティ編。リー・ギョク・ボイ。日本のシンガポール占領—証言＝「昭南島」の三年半。凱風社，2007，pp.112-3.

[12]むろん，韓国との従軍慰安婦問題と同様に，政治的・経済的な側面に限っていえば，日本とシンガポールはたがいに，「第二次世界大戦の間のシンガポールにおける不幸な事件に関する問題

“Questions regarding the unhappy events in Singapore during the last war”が，すでに「完全かつ最終的に解決されたことを確認“confirms that the questions arising out of the existence of the second world war are settled completely and finally”」している（前掲協定前文および第二条）。

国立公文書館口承歴史センターは各種インタビューの公開に努めており，以下のサイトでは“Mass Screening”あるいは“Sook Ching”等のキーワード検索を利用することで，華僑粛清事件に関する証言へアクセスできる。

[http://www.nas.gov.sg/archivesonline/oral\\_history\\_interviews/](http://www.nas.gov.sg/archivesonline/oral_history_interviews/)

また，長時間におよぶインタビューは複数のディスクに分割収録され，各ディスクには概要が付されている。例として林琦璨のインタビュー4巻目を参照。

LIM Kee Chan. 2 Nov 1998, Story of Joo Chiat Changing Landscapes & Community, Accession Number 002068, Chiang Wai Fong Interviewer, Reel/Disc 4 of 9.

[http://www.nas.gov.sg/archivesonline/oral\\_history\\_interviews/record-details/49344525-115e-11e3-83d5-0050568939ad?keywords=Mass%20screening&keywords-type=all](http://www.nas.gov.sg/archivesonline/oral_history_interviews/record-details/49344525-115e-11e3-83d5-0050568939ad?keywords=Mass%20screening&keywords-type=all), (accessed 2017-6-25).

さらに，インタビューの内容が書き下されてい

る場合もある。たとえば同前書き下しは以下。ただし，いうまでもないが，声の肌理とともに出来事の一義性が消えていく（かのように錯視される）。

[http://www.nas.gov.sg/archivesonline/viewer?uuid=49344525-115e-11e3-83d5-0050568939ad-OHC002068\\_004](http://www.nas.gov.sg/archivesonline/viewer?uuid=49344525-115e-11e3-83d5-0050568939ad-OHC002068_004), (accessed 2017-6-25).

[13]ピーター・B.ハーイ。帝国の銀幕—十五年戦争と日本映画—。名古屋大学出版会，1995，i.

[14]同箇所。

[15]前掲協定前文「シンガポールにおける不幸な事件“The unhappy events in Singapore”」および賠償総額のちょうど半分は「特別の条件による借款“Loans on special terms”」による，との記載を参照。

[16]前掲朝日（1967）。朝日は日本の軍備拡張を批判する71年の記事でも記念碑を写真つきでとりあげているが，そこには「〈慰霊塔〉シンガポールにそびえる虐殺事件被害者の塔。かつての日本軍国主義の罪悪を象徴するかのようだ」とのキャプションが付されており，シンガポールの知識人にインタビューしながらも，記念碑に対するまったくの無理解をうかがわせる。先述のように，慰霊対象をあえて華僑粛清犠牲者には限らなかったことに，シンガポールの選択が示されていた。

[17]倉沢愛子。宣伝メディアとしての映画—日本軍占領下のジャワにおける映画制作と上映。映画と戦争—撮る欲望／見る欲望。森話社，2009，p.97-102.

[18]ただし，たとえば岡田は，現地製作映画にかいま見られた（しかし一瞬にして潰えた）非自民族中心主義的な可能性について，留保をくわえている。

岡田秀則。南方における映画工作—《鏡》を前にした「日本映画」。映画と「大東亜共栄圏」。森話社，2004，pp.283-5.

[19] (b) Ibid.

---

**Abstract**

---

We can easily find the Civilian War Memorial in Singapore city center. The Japanese army occupied Singapore, massacred hostile 50,000 Chinese during World War II. The systematic purge usually called Sook Ching or Mass Screening. In 1962, remains belonging to the victims of the Sook Ching were unearthed. In 1967, the Civilian War Memorial was built in memory of all the civilians killed during the Japanese occupation of Singapore. Following the rise of protest campaign by Singapore citizens, Japan signed a quasi-reparation agreement with Singapore in the same year, but it did not officially acknowledge war responsibility. The Civilian War Memorial is a symbol of the multi ethnic state Singapore, Japan still can't understand it correctly nor face it directly.

---

(受付日：2017年6月28日，受理日：2017年7月7日)

城殿 智行（きどの ともゆき）

現職：大妻女子大学比較文化学部教授

立教大学大学院文学研究科日本文学専攻博士課程後期課程単位修得退学。

専門は批評，映画学，日本近代文学。言語と映像の關係に焦点をあてた表象分析を行っている。

主な著書：『明るい部屋』の秘密 ロラン・バルトと写真の彼方へ（共著，青弓社），ホラー・ジャパネスクの現在（共著，青弓社）